

会議名	令和5年度 第3回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開催日時	令和6年3月26日(火) 午後2時00分～3時25分
開催場所	稲沢市勤労福祉会館 3階 第2・3会議室
主催	生涯学習課
議題	◎あいさつ 協議事項 1 令和6年度主要事業に係る取り組みについて 2 その他
出席者	【委員】 山内晴雄、吉川光彦、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、 牧修、藤田美知子、牛嶋みゆき、内藤伸一朗、松原正明 【事務局】 教育部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、 各課主幹、社会教育指導員、主事 計12名
備考	傍聴者1名

【会議概要】

◎あいさつ

(教育部長)

- ・第3回社会教育委員会に御多用のところお集まりいただいたことへのお礼。
- ・第2回社会教育委員会を開催した際には、令和6年度の予算の確定前ということもあり、主要事業に係る取り組みについて一部変更した。今回の資料に基づいて来年度の事業に取り組んでいきたいと考えている。委員の皆様には引き続き御理解・御協力をお願い。

(委員長)

- ・委員の皆様にはこれまで様々な意見をいただいた。
- ・最近、まちの活力が落ちているのではないかと感じてしまう。学校や地元においてもPTAや子ども会に入らないという人が出てきた。通学団に参加したくないという人まで出てきた。
- ・今、一番にやらなければいけないのは、地域づくりであり、そのための人づくり。大震災が起こった時に、果たして今の稲沢市が持ちこたえられる絆があるのかということを感じる。認識を向けていただいて、市と私たちが一緒になって、今一度まちづくりを見直さなければいけないのではないかと強く思う。
- ・民間の活動を盛り上げていくこと、そしてそれらを支援していく政策を是非お願いしたいと思っている。

- ・本日は令和6年度の社会教育目標についてお話しいただくのでよろしくお願ひ。

◎議題

1 令和6年度主要事業に係る取り組みについて

資料1「令和6年度社会教育目標」について説明

(生涯学習課)

- ・第2回社会教育委員会において議論していただき、3月21日開催の定例教育委員会に議題として社会教育目標を提出し、承認を得ましたのでその報告をさせていただきます。

資料2「資料2 令和6年度主要事業に係る取組みシート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

- ・地域学校協働活動推進事業については今回初めて提示させていただきます。
- ・地域学校協働活動推進員を配置した実施校について、令和5年度は20校であったが、令和6年度は年度末の取りまとめでは30校となる予定。

(スポーツ課)

- ・トップアスリートとの交流事業について変更点などを説明。
- ・第20回アジア競技大会(愛知・名古屋2026アジア競技大会)について説明。アジア・アジパラ競技大会組織委員会へ職員1名派遣する。

(図書館)

- ・子ども読書活動の推進(稲沢市子ども読書活動の取組み)について説明。

(美術館)

- ・令和6年度特別展「安野光雅展」について説明。

(生涯学習課)

- ・追加報告として、第2回社会教育委員会で提示した明治公民館新築事業及び民俗資料収蔵庫の解体事業については、予算査定の関係で来年度の実施はなくなった。

(委員長)

- ・令和6年度社会教育目標、令和6年度主要事業に係る取組みシートについて説明いただいた。委員の皆様から質問等あればお願ひする。

(A委員)

- ・3月21日開催の定例教育委員会に参加した。承認いただいたとのことだが、教育委員からの質問や意見を社会教育委員会で説明してもらいたい。社会教育委員に知らせないのはよくないと思う。今後、検討内容を報告するようお願ひする。
- ・図書館と美術館で第2回社会教育委員会から変更があった。その変更理由について説明をお願ひする。

変更点について図書館・美術館から説明。

(A委員)

- ・変更があってもいいが、それをお知らせすることが誠意ある対応だと思う。

(教育部長)

- ・変更がある場合に説明するよう今後、徹底させていただく。

(A委員)

- ・それを定例教育委員会で説明しなければいけない。教育委員に社会教育委員会ではこうだったが、ここを修正させていただいたということを説明することが大事だと思う。4月の定例教育委員会で説明いただきたい。

(教育部長)

- ・4月の定例教育委員会のその他事項で説明させていただく。

(A委員)

- ・教育委員が分かるよう口頭ではなく、紙媒体で変更点を説明するようお願いしたいと思う。検討していただいて紙媒体か口頭で説明するかはお任せする。

(B委員)

- ・社会教育委員の立場の問題。社会教育委員が軽視されていると感じる。県の会議で社会教育委員の手引きをまとめた中に、教育委員会との関係がある。教育委員会本体が学校教育には一生懸命取り組んでいるが、それだけではなく、教育委員会は社会教育も含めて全体的に稲沢市民の学びのあり方、市民のムードについてどう捉えるかを考えなければいけない。そして、社会教育の中ではこうする、学校教育の中ではこうするといったことが伝わってきてほしいと思う。
- ・社会教育委員の人は現場にいるので、ひしひしと感じていることがあるので意見を言っている。
- ・お互い意思疎通ができていることが大事だと思う。市の行政に生きていき、そして市民が喜んで活動できるような方向になることを望んでいる。

(A委員)

- ・取り組むシートについて、財政的なことがあるので変更があるのは仕方がないと思っている。今回のように第2回で提示していただいて、第3回で変更点とその理由を説明いただいた方がかえってすっきりしていいと個人的に思っている。
- ・地域学校推進事業について30校とのことだが、市内に32校あるが残りの2校はどこか。

(生涯学習課)

- ・まだ決定ではないため、学校名については伏せさせていただくが、各学校を通じてお願いしており、その後、状況の確認もさせていただいている。

(A委員)

- ・説明に私が行ってもいい。大変だからという実情も含めて、行って説明させていただいて、やっぱりそれでもできないということもあるかもしれないが、一回説明をさせていただきたいと思っている。
- ・お金についてだが、謝礼はいくらか。

(生涯学習課)

・年間 36,000 円を上限として1時間当たり 1,000 円としている。

(A委員)

・何が言いたいかという、最低賃金より少ないということ。それも何時から何時まで仕事をしたか記入している。それを提出して生涯学習課が計算している。年間いくらではいけないのかと聞くと、県の補助金の関係で勤務時間を出さないといけないということだが、職員の働き方も考えて、負担を減らすためにも年額で定めるやり方をして欲しい。

・勤務時間について提出がない人の人数について、次の社会教育委員会で教えていただきたい。活動していても面倒なので出さない人もいるということを知ったので、研修会の際に生の声を聴いていただきたい。

(B委員)

・地域学校協働活動について、既存の組織において皆でやっていけばいい。手作りでゆっくりやっていけばいい。今よりも一歩前に行くことが地域づくりになっていく。社会教育委員がどこかで説明できるといいと思う。

・説明がうまく出来ているかは心配している。社会教育委員の中ではとても大事な事なので自分たちも説明したいと思っている。

(A委員)

・トップアスリートとの交流事業について、ハンドボールの巡回指導をやっていただき、日本リーグに出ている選手もおり、トップ選手を見ることができる。来年度も是非巡回指導をお願いしたい。また、他のスポーツでもどんどんやっていただきたいと思う。稲沢市はバレーボールを多く実施しているがハンドボールも子どもたちに教えてもらえるといいなと思う。

・第20回アジア競技大会（愛知・名古屋2026アジア競技大会）の予算について0円となっているのは何故か。

(スポーツ課)

・組織委員会から警備計画や運営計画の策定について年次ごとに実施しなければならないフローチャートがきている。組織委員会に市単独で組む必要がある予算があるかお伺いしたところ特になく、組織委員会へ職員の派遣やスポーツ課職員の組織強化をしてくださいとのことだったため、当初の予算としては0円で計上しているが、必要に応じて補正等で対応させていただきたいと思っている。

(A委員)

・アジアのメイン会場の一つなのでよろしく願います。

・部活動の地域移行について委員会があったと思うが、その様子について教えていただきたい。どうしてHPにこの委員会の議事録を載せないのか。情報提供が大事だと思う。令和8年度の2学期から始めるということを定例教育委員会で初めて聞いた。そういうことを情報提供しないといけない。

・治郎丸中学校が指定校となっていると思うが、治郎丸中学校での様子を教えてください

い。

(教育部長)

・治郎丸中学校において、ソフトテニス部について地元で活躍している方に中学生と一緒にやっただいている。まずは土日のソフトテニス部ということで進んでいる。それから、同じく治郎丸中学校において、今年度県の補助金があったため、1年間プラスバンド部でも実施した。

(A委員)

・今後9中学校区で実施するのか。来年度はどこで実施するか。

(教育部長)

・詳しくは聞いていないが、来年度も治郎丸中学校になると思う。やっただけの方が治郎丸中学校に見えるので、指定校にさせていただいた。

(C委員)

・美術館の取り組みシートについて、子どもたちが興味のある内容となっている。令和5年度の磯野さんの時は、地元の子供たちは無料ですということではなく、美術館まで学校から行くぐらいのことをしていただきたかった。その作品を見に行くような取組みがあったらよかったですのではないかと思います。若年層割合が少ないというが、今回、児童に関するもので、いらっしやいだけではなかなか行かないので、ぜひ子どもたちが積極的に行きたくなるような、誘導してあげられる仕組みづくりに取り組んでいただきたいと思っている。

(D委員)

・地域学校協働活動のことで、地元の校長先生に伺ってみたところ、苦労されていて、区長やまちづくりの関係者など地域の人に打診をするが、いい返事をもらえないということだった。地域の方も定年も上がるということもあるが、働きながらという方もいる。校長先生をサポートしてあげられる事とか、私たちも何か役に立つことがあればと思っている。学校によって温度差はあると思うが、令和5年度やってみて、継続性という意味も含めて、地域学校協働活動推進員になられた方々の感触や手応えというところを知りたい。

(生涯学習課)

・地域学校協働活動については、成功に導くのは大変難しいという状況で始めている。始める前には、まちづくりの協議会にも説明をさせていただいた。また、老人クラブにもお話をさせていただいた。そして、学校が一番信頼する方を推薦していただき、その方の協力を得て、地域の協力を得て実施していくということで、目指したのが始まりとなる。ただ、やはり地域差はある。各学校にとっては、地域から協力を得られるところとそうでないところとある。また、手探り状況で推進員というのはどういうものかということをもまず勉強しているという地区もある。したがって、地域学校協働活動については、一概に全ての地域で一斉に実施できるというわけではなく、その地域の特性を考えて、どこが成功しているとかどこが失敗という意味ではなく、全部の校区が進めていけ

る状況にしていきたいということでこの事業を進めている。

(E委員)

・美術館のことで、荻須記念美術館の来場者を増やすにはどうすればいいかということ
を社会教育委員会でも議論があったと思うが、今回、安野光雅さんと、荻須さんの風景
画をあわせて展覧するというでこれだなと思った。最近、現代アートとそれから既
存のベテランの作家とのコラボレーションがよくあって注目されたりしていると思う。
東京の近代美術館でも、現代アートの展覧会をして注目された。稲沢市ではないが名古
屋芸術大学があるので、若いアーティストは結構いると思う。瀬戸市も芸術大学が近隣
にあって、若いアーティストが多くいて、人知れず現代アートの全国的な結節点みたい
になりつつあると聞いた。行政というよりは、民間の有志が集まって活動しているみた
いだが、荻須美術館もそういう道もあると思い、今回のあわせて展覧するということ
にはすごく惹かれた。

(F委員)

・地域学校協働活動の意見をいただいて、上手くいってない地域や学校もあるというこ
とは私も間接的には聞いているが、学校と地域との協働活動というのは、実はこれま
でもやってきている。地域の方が学校に入っていらっしゃる行事もたくさんある。そう
いったものを上手に地域学校協働活動の一環として関連付けていき、まずはあるもの
から始め、そうやっていく中で自信をつけて、新しい発想が生まれてくればいいと思
う。いずれにせよ、早急に結果を求めては絶対に無理な話なので、先を見据えて、慎重かつ
着実に少しずつでも前進していけるような実感が湧くような活動にしていきたいと考
えている。

(G委員)

・バレーボールのお話で、生徒にバックヤードを見せるという計画があるとのことだ
ったが、大人も興味がある。年齢層を広げていただけたらと思う。

(H委員)

・様々な提案があって、結構悩ましい話があった。ただ、前向きな考えがすごくある
と思うので、少しずつできることから進んでいけばいいと思う。

(I委員)

・美術館の企画展や展覧会が毎年1つか2つあるが、美術館の集客を増やすという意
味で今年度の磯野宏夫展は、若い方向きの内容だったと思う。こうした人をリストア
ップして、2回のうち1回は企画展でこうした人を選んで集客能力を上げていくのが
いいと思う。美術館に足を運ぶ方は高齢の方の割合が高い。若い方に足を運んで
もらえるように企画する必要がある。

(J委員)

・情報や思いを共有することは前提で、こんなことができそうとか、それから人同
士が活用し合うとか、そこにこの人の力とかネットワークが繋がってきて、民間
の活力みたいになっていくのではないかと思った。何か知らないところで決まっ
ていくのではなく、情報提供があることで地域活動とか、そういったものに繋が
っていくのだろうと思

った。

・稲沢市には美術館があったり、ホールがあったりと、あるということがすごく大きなことで、あるから音楽や演劇を観る機会がある。遠くに行かないと観ることができないのと大きな違いなので、そこは活用しないともったいない。身近に感じることで、子どもの育ちというのが大きく違ってくると思うので、スポーツもアスリートを見たとか聞いたとか、うちの町に来たとか学校に来たといったように、それだけでも大きな刺激になるだろうと思うので、魅力的なまちになっていって欲しいと思う。

(B委員)

・稲沢市文化振興財団があって、組織的には外郭団体という形になるから、ここに呼ぶことができないかもしれないが、その性格からいうと文化事業を振興するための財団として市が応援している。社会教育にまさに繋がっているので、本当は社会教育委員会に出て来てほしいと思う。子どもたちに、市民会館で様々な事業をしていることをもっと知らせる手はないのかと思う。

2 その他

2019 生涯学習推進計画中間見直しについて生涯学習課から説明

(委員長)

・生涯学習課から説明がありました。御質問・御意見はあるか。

(A委員)

・生涯学習推進計画が皆さんのお力で完成した。これがこの後どのように周知されるか心配している。教育委員にどのように周知されるか。

(生涯学習課)

・こちらについては各職員が把握できるよう職員用のネットワークにアップする。また、教育委員会で報告させていただく。

〈午後3時25分閉会〉